

交通量の区分による標準構造

設計交通量の区分	ブロック層のTA(cm)	設計CBR(%)	ブロック層		上層路盤		下層路盤	合計厚さ(cm)	TA'	必要TA(cm)		
			インターロックブロック	サンドクッション	瀝青安定処理	セメント安定処理	粒度調整砕石				クラッシュラン	
I	粒状路盤	8	3	8	2	-	-	10	10	30	14.0	13
		8	4	8	2	-	-	10	10	30	14.0	12
		8	6	8	2	-	-	15	-	25	11.8	11
		8	8以上	8	2	-	-	10	-	20	10.5	10
II	粒状路盤	8	3	8	2	-	-	10	20	40	16.5	16
		8	4	8	2	-	-	10	15	35	15.3	15
		8	6	8	2	-	-	10	10	30	14.0	14
		8	8	8	2	-	-	10	10	30	14.0	12
		8	12以上	8	2	-	-	15	-	25	11.8	11
		8	3	8	2	5	-	-	20	35	17.0	16
III	瀝青安定処理	8	4	8	2	5	-	-	15	30	15.8	15
		8	6以上	8	2	5	-	-	10	25	14.5	14
		8	3	8	2	10	-	-	20	40	21.0	21
		8	4	8	2	8	-	-	25	43	20.7	20
		8	6	8	2	5	-	-	20	35	17.0	17
		8	8	8	2	5	-	-	20	35	17.0	16
IV	セメント安定処理	8	12	8	2	5	-	-	10	25	14.5	14
		8	3	8	2	-	15	-	20	45	21.3	21
		8	4	8	2	-	15	-	15	40	20.0	20
		8	3	8	2	10	-	20	25	65	29.3	29
		8	4	8	2	10	-	15	20	55	26.3	26
		8	6	8	2	10	-	10	15	45	23.3	23
V	瀝青安定処理	8	8	8	2	10	-	-	20	40	21.0	21
		8	12	8	2	10	-	-	15	35	19.8	19
		8	20	8	2	7	-	-	10	27	16.1	16
		8	3	8	2	-	20	15	20	65	29.3	29
		8	4	8	2	-	20	10	15	55	26.3	26
		8	6	8	2	-	20	-	20	50	24.0	23
V	セメント安定処理	8	3	8	2	12	-	25	35	82	35.1	35
		8	4	8	2	12	-	20	30	72	32.1	32
		8	6	8	2	12	-	20	20	62	29.6	29
		8	8	8	2	10	-	15	20	55	26.3	26
		8	12	8	2	10	-	10	15	45	23.3	23
		8	20	8	2	10	-	-	20	40	21.0	20

注: (1)設計交通量の区分IIでセメント安定処理工法を使用すると経済性に欠けるため瀝青安定処理工法の使用を原則とする。
 (2)設計交通量の区分IIIで設計CBR6以上の場合、瀝青安定処理工法の使用を原則とする。
 (3)設計交通量の区分IVで設計CBR8以上の場合、瀝青安定処理工法の使用を原則とする。
 (4)設計交通量の区分Vは瀝青安定処理工法の使用を原則とする。
 (5)舗装表面の横断勾配が十分に確保できない場合には、目地からの浸透水が多くなるため、上層路盤に透水性のある瀝青安定処理材を使用するとよい。

※当社では、インターロッキングブロックの構造上、透水性の瀝青安定処理を推奨いたしております。

交通量の区分

設計交通量の区分	大型車交通量(台/日・方向)の範囲	49kN(5t)概算輪数
I	10未満	14,000
II	10以上100未満	60,000
III	100以上250未満	300,000
IV	250以上1000未満	2,000,000
V	1000以上2000未満	7,200,000

構造設計に用いる設計交通量は、設計期間における平均の1日1方向当たりの大型車交通量とする。

区分のCBRと設計のCBRの関係

区間のCBR	設計CBR
3以上4未満	3
4以上6未満	4
6以上8未満	6
8以上12未満	8
12以上20未満	12
20以上	20

目標とするTA(cm)

設計CBR	設計交通量の区分				
	I	II	III	IV	V
3	13	16	21	29	35
4	12	15	20	26	32
6	11	14	17	23	29
8	10	12	16	21	26
12	10	11	14	19	23
20	10	11	14	16	20

等値換算係数

使用する位置	工法・材料	品質規格	等値換算係数a
表層	インターロッキングブロック	曲げ強度 5.0N/mm ²	1.00
	瀝青系材料	加熱混合・安定度 3.5kN以上	0.80
上層路盤	セメント、瀝青安定処理	一軸圧縮強さ 1.5~3.0N/mm ²	0.65
		一次変位量 5~30(1/100cm)	
	セメント安定処理	残留強度率 65%以上	0.35
	粒度調整砕石	一軸圧縮強さ[7日] 3.0kN以上	
下層路盤	粒度調整鉄鋼スラグ	修正CBR 80以上	0.25
	クラッシュラン、鉄鋼スラグ、砂等	修正CBR 80以上	
		修正CBR 30以上	
		修正CBR 20以上30未満	0.20

注: (1)上に示す等値換算係数は、その工法、材料を表に示す位置で使用したときの評価値である。
 (2)[]は、養生日数を示す。

Interlocking Block
路盤構造参考施工図〈主に民間工事編〉

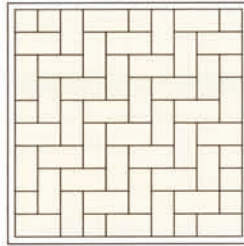
(単位:mm)

設計 CBR	3 (比較的軟弱な状態)	6 (普通土の状態)	8 (比較的堅固な状態)	
アプローチ歩道				
軽車両乗り入れ路 普通車駐車場				
備考	<p>インターロッキングブロック 砂 粒度調整砕石 M-30 クラッシュラン C-40 路床</p>			

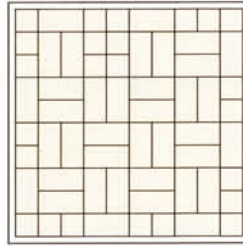
Interlocking Block
Layout Pattern [インターロッキングブロック/レイアウトパターン]



BN-1
㎡当使用量
200×100×60(80)
で50個



BN-2
㎡当使用量
200×100×60(80)
で50個



BN-12
㎡当使用量
200×100×60(80)
で50個